

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500063		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス前沢		
所在地	〒029-4209 岩手県奥州市前沢あすか通四丁目8番地15		
自己評価作成日	令和4年12月23日	評価結果市町村受理日	令和5年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・御利用者様にとって安心があり、生きがいと笑顔を増やしていくのが認知症ケアの本質としております。 ・共同生活でつくられる絆や生きがい、やりがいがある毎日がグループホームと考えております。 ・個々の見えない気持ちを量り具体的に対応できるのもグループホームの特徴を考えております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR前沢駅や奥州市前沢総合支所に近い新興住宅地に、平成20年に開設された1ユニットのグループホームである。周辺には養護学校、保育園、文化会館、図書館等、公的施設が多く、国道4号線沿いには大型スーパーや飲食店が並び良好な立地環境にある。「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」という、利用者の言葉を理念に掲げ、利用者や地域との助け合いを大切にしている。自治会に加入し地域との交流をはかり、駐車場の一角を町内会の資源回収の集積場所として提供し地域住民が自由に出入りしている。事業所と地域と共催の祭りを盛大に開催したり、地元の地域防災組織と避難訓練には、自治会長や近隣住民も参加し、利用者の避難誘導と見守りを担っていただいている。利用者は、職員の温かい支援を受けながら、日々、笑顔を絶やすことなく穏やかな暮らしを続けている。今後は恵まれた環境を生かし、医療と介護の連携や人的体制の強化を図りながら、理念に沿った充実した運営を目指している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」を事業所理念として朝礼で唱和している。職員の勉強会でも多くのことが最終的に理念に繋がっていることを理解している。	開設当初に利用者が七夕の短冊に書いた言葉を事業所の理念とし、ホール内に大きく掲示し唱和している。職員会議や新規配属職員のオリエンテーション等で、理念の共有を図っているほか、ケアカンファレンスや日々の申し送り等でも振り返り、ケア実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域防災会のボランティア活動であるアルミ・スチール缶集めの集積場として、当ホームの駐車場の一角を使用していただいている。管理者は地域防災会を初め多くの方と日常的に交流している。	地域の自治会に加入し、コロナ禍ではあるが、リサイクル事業に継続的に協力している。駐車場は、保育園児の散歩や、地域のバトミントン、ラジコン遊びに利用され、地域と利用者とは、間接的であっても、何気ないおつきあいを重ねており、利用者の楽しみにもなっている。	地域の防災組織との緊密な連携や、地域との交流が根付いており、今後とも大切にして継続されることを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域と共催していた秋祭りはコロナ禍で休止。現在は秋に地域に向けて感染対策のチラシを作成し配布している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以来、書面開催であるが、ホームの報告からの御意見や御感想を会議参加者から自筆で返信いただく形が、職員には励みになっておりサービスの質の向上につながっている。	コロナ禍のため、会議は書面開催となっているが、毎回、丁寧詳細な資料を作成して委員に提供しており、意見や感想等もいただいている。今後は、本人家族、消防や警察、学校関係者等、オブザーバー的メンバーの参加も検討しながら、更なる充実を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議資料での報告内容を市民福祉グループ長様も目を通していただいている。温かい励ましや適切な御意見から親近観を持たせていただき、いざという時の連携意識は高いところで維持できている。	普段の往来は無いものの、会議の案内を届ける際には、担当者に事業所の普段の状況や様々な情報を提供しながら、助言や指導を得ている。生保の担当者も年に数回来訪し、利用者の状況を把握しているほか、介護相談員の来訪もあり、スムーズな連携が図られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護として身体拘束は有り得ないことという認識を持っており、行動制限に対しても夜間のみ防犯上の理由で玄関施錠をおこなっているが、以外は同じく有り得ないことという認識で全職員がいる。	「身体拘束は無い」ということを職員全員が共有し心に刻み込んでいる。スピーチロックを含め、身体拘束を疑われないことがないよう、お互いに細心の注意を払っている。身体拘束適正化委員会は、年4回職員会議に合わせて行っている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様にあり得ないことと共有している。勉強会では得にもネグレクトや心理的虐待について理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者、また利用予定者様に対象が有った際は速やかに関係機関と連携をとらせていただく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終結時及び、契約終了となる可能性が出てきた際は必ず内容確認および相談をおこなう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が意見や質問を表出しやすい環境づくり、距離感ゼロを心がけている。御家族様からも意見表出に遠慮がないように、サービス計画に対する質問など文書でお願いしている。また玄関には質問箱を設置している。	質問箱を含め家族から意見や要望は出されていないが、ケアプランの見直し時期に、書面で要望を確認している。運営推進会議の資料や利用者の日頃の活動の様子を伝える写真、手紙を定期的に届けている。今後とも程よい距離感を保った関係を続けたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は介護業務に入って職員の意見、提案を常に聴きルーチン作業の効率化など即反映されている。	勉強会を兼ねた職員会議、朝礼や夕方の申し送り、業務中など、日頃から職員との話し合いを心がけている。「ケアチェック表やキッチンの動線見直し」の提案があり、具体化している。職員不足解消と職員体制強化に向け、法人本部に働きかけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割の作成前には休日などの勤務希望を募っている。毎月の事業所行事は介護職が主導で行なう。また状況に応じた待遇改善を図るなど仕事への意欲向上に努めている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として勉強会を定期的開催している。加えてコミュニケーション技法などは働きながらトレーニングしている。経験量に応じて任かせる内容を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社運営のグループホームが他に3箇所あり情報交換や相互訪問をし、質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から情報収集に努め、困っていること、求めていることを把握。職員間で共有し、サービス開始時から個に応じた関係づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、契約前から可能な限り情報収集に努めている。入居後に徐々に表出してくることも多いため、管理者は臨機応変な対応に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申請時のお話のなかで、家族の介護実情を把握し、ホームに空きが出るまでの繋ぎとして他介護サービスの提案もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は業務時間内の食事は利用者様と同席する。食事の準備、片付けや洗濯物干しや畳み方は利用者様と職員の共同作業となる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族状況に合わせて相談のうえ行政への申請書類や定期通院を担っていただいている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外の友人等の面会も受け入れている。定期通院に入居前と同じ所に継続して通っており、知り合いに逢う頻度の維持にも成っている。ドライブ外出の際は、利用者様の馴染みの場所を行き先を選んでいく。	利用者の高齢化とコロナ禍が重なり、家族や親戚、友人等の面会機会も少なくなっていることに加え、面会も玄関での立ち話程度になっている。最近では、かかりつけ医を受診しながら、利用者の馴染みの場所をドライブしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然発生的に助け合い、関わりができる環境が維持されており、それに向けた支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に長期入院することでの契約終了が殆どであり、選択支援や急性医療期間から療養型医療機関への転院などの際には必要に応じて協力や相談をさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動や表情から希望、意向が汲み取れるよう努めている。リスクを検討しつつ本人本位を優先している。	入浴は利用者の思いを把握する機会となっている。習字を部屋に飾ったり、ばね指でおしぼりをたためない人に他の利用者が力を貸したり、講演会の講師をしたい利用者のために事業所で講演会を設定したりと、思いや意向を把握して実現に向けて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前から家族様や市町村、利用されている介護サービス事業所から情報収集をしている。入居後も失礼にならないければ、面会の友人等から生活歴の把握をさせていただくこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	談話内容や表情、声量や動作の速度等こまかい情報も収集するよう努めている。入居サービスにて24時間の流れ、季節変わり目の変化も把握しやすい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員にて定期的にサービス結果のモニタリング及び御本人の意向を再確認している。その後のあらたな計画立案後は家族様にて意見を記入いただく体制をとっている。	居室担当制はとっておらず、職員同士の話し合いやケース記録を参考に、介護支援専門員がモニタリングを行っている。定例6か月毎にケアプランの見直しを行い、原案作成前に、予め書面で家族の意向や希望を確認している。理念に沿ったケアプランの作成を心がけている。	

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、または目的別に複数の記載項目を設けて毎日取り組んでいる。情報共有及び介護計画等に反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の性格や特技に合わせて多種多様な余暇援助を工夫している。個々のニーズにも柔軟に対応できるよう業務形態を工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	立地に恵まれ、地域からの協力が厚い。個々のニーズに合わせて地域行事に出向くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と関係づくりができており、必要に応じた処方薬調整を相談している。歯科は往診治療をしている。	利用開始時と同じかかりつけ医に受診しており、変更はない。受診同行は殆どが職員が行ない、家族等の負担軽減にも繋がっていると好評である。6月に体調が急変した利用者があり、医療と介護の連携体制の必要性を考える良い機会となっている。	利用者の健康管理の指導や助言を得たり、適切なかかりつけ医受診に繋がるように、訪問看護ステーションの活用など、看護師との連携が図れるような仕組みづくりを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医、または事業所の協力病院の看護師との関係づくりができており、細かな相談ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	周辺病院との関係づくりは成されている。入院中の訪問や必要に応じた病院関係者との面接にて情報や協力をいただいている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時および必要に応じて家族等と相談をし、方針を共有している。また、いざ重度化した場合は担当医と相談し、ホームで対応できること、具体的に入院する段階になる目安などを細かく相談している。	これまで看取りの経験はない。本人の希望で重度化後もホームで過ごし、最終的に医療機関に救急搬送された事例があった。重度化や看取りへの取り組みを今後の課題とし、現在は情報収集や研修機会を検討している状況にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員のスキルが上がっていく中で段階的に訓練を計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同じく、職員のスキルが上がっていく中で段階的に計画している。地域には自主防災組織があり日頃からの付き合いがあるなか災害時の協力体制も強固になっている。	避難訓練は、火災想定訓練を地域との協働で実施している。訓練には、地域の自治会長や両隣りの住民も参加いただき、誘導や見守り役として協力をいただいている。事業所はハザードマップでの指定はないが、避難場所も2カ所確保して備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。職員の関わる姿勢や工夫しだいで利用者様の心身の健康は大きく変われることを理解している。	利用者の呼称は「さん」付けとし、一人一人を受けとめ方が異なることから否定的な言葉かけは行わず、食後の歯磨きを含め、一斉に命令するような言葉掛けをしないよう周知している。トイレや入浴の誘導はさりげなく行い、また父の日、母の日には職員皆で「ありがとう」の言葉を掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上記同じく職員が関わる姿勢に注意し、利用者様が希望を表出できる環境、および焦らずに考えを組み立て決められる雰囲気をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日程で決まっているのはリハビリ体操の時間と食事や入浴。それ以外は、思い思いの時間をつくっていただき、職員は臨機応変な支援をしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のニーズに合わせて美容院に通える体制がある。起床後は鏡前に立って貰い、ゆっくり整容していただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日課になっている。多くの利用者様が食事作りに関わっている。役割を担う喜びに繋げている。	法人本部の栄養士が作成した献立を基本に、利用者の希望に合わせ、汁物を芋の子汁やすいとん等に変更して提供している。誕生会には利用者の希望に合わせた献立を取り入れ楽しんでいる。利用者は、食材やおしぼりの準備、テーブルや食器拭きなどを手伝い、利用者は、介助されることなく、美味しい食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた量や食材の刻みの工夫をしている。栄養バランスも1食あたり10品以上の食材を使用するよう努めている。水分量は食事、おやつ時以外でも自由に飲めるように専用のペットボトルを常時手元に準備させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後の歯磨きは全利用者が必要性を理解して取り組んでいただいている。歯科往診ができる体制にあり、職員もブラッシング技術等学んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全利用者のトイレ頻度も把握できるようチェックしている。介助で尿パッドを常時交換する必要がある利用者でも、トイレで便器に座って力んでもらう習慣は続いている。	日中は、排泄チェック表を活用しながら声がけし、全員がトイレを利用している。夜間は、リハビリパンツとパットを利用し、尿意や便意を示す人については、その都度トイレに誘導している。入居で規則的な食事となり、排泄も改善した利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	季節替わりの体調変化、便秘薬の効き目の違いを個々に把握している。全利用者がペットボトルを所持して頻回に水分補給をしており、昼食前にはリハビリ体操に取り組んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は職員体制の弱さから希望日、希望時の入浴は難しい。体制強化に努めている。	週1～2回程度の入浴支援となっている。入浴の嫌いな方、避ける方には、清拭や足浴で次回につないでいる。利用者は、一人で静かに入ったり職員と語り合っって時間を楽しんでいる。今後は、職員体制を強化して、週2回程度の入浴を提供したいと考えている。	人材確保が難しい中ですが、職員体制の早期充実を図るなどにより、更なる利用者の意向を踏まえた入浴支援が行われていくよう期待します。

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活サイクルや体調に合わせており、必要に応じて食事開始を遅らせたり、居室以外でも居眠りできる場所を勧めるなど工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	取り組んでいる。医師との相談のもと量や服薬時間の調整も必要性に応じておこない、効用時間や効果程度の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リハビリ体操以外に画一のレクリエーションは設けず、個々に時間をつくられている。食事や洗濯などの役割を担ったり、趣味活動をマイペースで行なったりと各々が楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季以外は散歩や遠足を計画できる体制がある。知人や御家族様と出かけるケースもコロナ禍前は行なっている。	現在は、コロナ禍のため、かかりつけ医の受診と散髪が、定期的な外出機会となっている。普段は事業所の西側の通りを散歩している。誕生日には生まれ育った地域など、本人の希望に合わせたドライブを行い、喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状態に応じてではあるが、財布(お金)を所持する方もいらっしゃる。自尊心を損なわないよう留意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。自尊心の維持に加え残存能力の維持にも繋がっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に天窓があり、ホールには季節を感じられる装飾や生け花の展示を心がけている。床暖房は各居室やホールでも其々に温度コントロールができるようになっている。キッチンには開放型で香りを感じていただけるような工夫をしている。	玄関には、以前入居していた利用者が描いた油絵が飾られている。引き戸を開けると天窓から明るい光が差し込む共有スペースがあり、季節ごとに利用者が作成した切り絵や貼り絵が飾られ、和室や談話のスペースもある、利用者は、この広々としたホールで、それぞれ好きな場所で寛いでいる。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や窓辺のスペースなど居室以外でも個々または数人のみで過ごせるスペースがあり大きな窓から外を眺めたり談話していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのカーテンやタンス以外は個々が自由に家具を配置できる状況である。	居室には、温度調節が可能な床暖房が設けられ、整理筆筒とカーテンが備え付けられている。ベッドはリースであるが利用者家族の選んだものが設置されている。時計やカレンダー、家族写真や習字など自分で作成しものを持ち込んで飾り自分の部屋らしくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台には車椅子利用者でも届きやすい高さにしている箇所がある。廊下やトイレには手すりや立位バーが設置されている。浴槽には着脱可能な立位バーや補助椅子がある。		